

安倍東山稜 I (50周年記念山行キックオフ山行) 山行報告

【山城】 安倍川東山稜 【ルート】 安倍川河口～静岡市内～浅間神社～竜爪山～真富士山

【行動日】 2015年4月11日～12日

【メンバー】 CL 鶴田、SL 吉川、SL 柘植、萱野 (香)、長池、村尾、内堀、斉藤 (一)、齋藤 (健)
時田、広木 (国)、広木 (愛)、石崎、澤田 (路)、加藤、菅井、平野 (直)、平野 (良)
高地、富樫 (富)、花島、住田 (以下1日目のみ参加) 三輪、今泉、上茂、澤田 (淳)、
井本、鈴木 (秀)、鈴木 (玲)、池田 (継)、石井

【行程】

一日目：安倍川河口～安倍川河畔道路～静岡市内道路 (県道 208、県道 27) ～静岡浅間神社～
賤機山 (しずはたやま) ハイキングコース～鯨ヶ池～エバーグリーンガーデンキャンプ場 (泊)
二日目：キャンプ場～鯨ヶ池～東海自然歩道～竜爪山～第一真富士山～第三登山口～平野集落～
真富士の里～帰葉

【内容】

一日目

「我等ちば山の会、積み重ねし星霜半世紀、これを記念して日本横断山行を企図するものなり、
南は波青き太平洋安倍川河口から、北は波白き日本海親不知まで、幾多の山を訪れるものなり、
この大願の成就と参加する者全ての安全を願って、八百万の神に畏み畏み申す」

早朝 6 時静岡市下水道局中島浄化センター内多目的広場に集合した 31 名は、駿河湾の波打ち際で
リーダーの発声、会長の音頭での乾杯そして今泉大先達のお神酒注ぎで、1 年半に及ぶ日本横断山行
のスタートを切った。リーダーの発声文言は上述の如し。本人は「祝詞」のつもりだったが・・・
天候はあいにくの小雨模様だったが、風もなく波静かな駿河湾を望み、参加者それぞれの日本横断
山行への思いを胸に元気に歩き始めた。ちなみにお神酒は千葉の二人静。



やがて道は左手に安倍川の流れを見ながらの河畔道路となり、東名高速、東海道新幹線・東海道線の橋を越えて、安倍川橋のたもとで安倍川と別れ静岡市内の目抜き通り県道 208 号に入った。名物の安倍川餅を買い求め山姿で街中の道路を歩くのも気持ちがいい。県道 27 号から赤鳥居をくぐれば浅間神社すぐだ。浅間神社で一休み。ここで車回収グループの 5 人（広木（国）、鈴木夫妻、住田、池田（継））はスタート地点の安倍川河口へ戻った。



安倍川河口からの約 6K の下道歩きに別れを告げ、神社裏手から賤しずはた機山ハイキングコースに入る。標高 200m 前後の丘陵は曇り空で遠くの山こそ見えないが、左右に静岡市街地を望みながらのコースは殆どが私有地とのこと。野菜畑があり新芽の黄緑が目染みる茶畑の中の道を通れば「夏も近づく八十八夜・・・」と懐かしいメロディが口もとをついて出る。竹林から茶畑に続く道を急降下すれば鯨ヶ池到着。車回収グループが回してくれた車が待っていてくれる。ここで 1 日目のみ参加の 9 名は帰葉の途へ。本隊はキャンプ地のエバグリーンガーデンへと向かう。14 時半。



二日目

4時起床、6時に昨日の到達点鯨ヶ池をスタート。天気は回復して日も差している。3分の急登で第二東名の真上に出る。これを越さねばならぬ。急な階段を降り、高速の下をくぐって今度は急な階段の登り。振り返るとなだらかな丘陵を第2東名が分断しているのがよくわかる。いよいよ竜爪山の登りにかかるが山道らしくなったとは言え、作業小屋や作業道と思われる枝道があちこちにあり人の生活が身近に感じらる。霧を払うように差し込む朝日が道脇の樹林の中に小さいが明瞭なブロッケンを映し出し楽しませてくれる。静かな樹林帯の登りが続きやがて竜爪山の一角文殊岳のピークに着く。ここで穂積神社からの大勢の登山者に会う。どうやら我々が登って来たコースはあまり人が行かないルートのようなのだ。ここから真富士山へは距離も長く上り下りの激しい稜線だ。いかげん息も上がったころ前方からウオーという歓声が聞こえてきた。真富士山から逆走してきた平野夫妻と住田さんに出会ったに違いない。その通りで息一つ乱れていない3人とハイタッチ。今日の車回収移動は広木（国）さんと住田さんだが、二人では大変と平野夫妻が加わってくれたのだ。



下で一人で待っている広木（国）さんは何をしているんだろうなどと考えているうちに真富士山への最後の標高差300mの登りになる。とてもきつい。やっとたどり着いた第一真富士山の頂上は四方が開けていて、晴天時の眺望はさぞかしと感じさせる。午後2時半。最後の登りのペースはきつと感じた人が多かったようだ。今日のトップの柘植さんと吉川さんはルートファインディングについては右に出るものがないが、ついていくのは大変なペースの持ち主だと実感した。ここから北に延びる稜線は斉藤隊がたどるんだと第2陣に思いをはせて、左の急な下降路に入る。第3登山口で車回収隊が上げてくれた車に分乗する。県道までの6Kの林道を歩かないで済むのはほんとうに助かる。

真富士の里で広木(国)さんと再会し、全員で二日間の山行が無事終わったことを喜び合った。4時半。



富士山の姿こそ見えなかったが穏やかな安倍東の山々、河口から歩いて山道に入る、たくさんの仲間と一緒に歩く楽しさ、みなさんありがとうございました。 鶴田 記